社会科部門

文部大臣奨励賞

「木をかぶる」

広島県・世羅町立世羅中学校一年　是竹麻里　重谷里奈

実物を見たり、実物に触れたりすることで、研究内容がさらによくわかるようになっています

研究の動機から、仮説、具体的な体験、新しい将来への展望などを体系的にまとめた、郷土学習の優れた作品です。

表紙は、自分たちで編んださんぴらを帽子に見立てて貼り付けていることで、見る人の目を引く工夫がなされています。また、経木帽子や経木、さんぴらなどの実物を作品の一部に用いたことによって、写真やイラストだけでは表現できない伝統工芸のあたたかさを伝えてくれます。

重要な言葉や人のせりふは、色分けされているためわかりやすく、経木帽子について全く知らない人でも、どんなものかがすぐ理解できるようになっています。

木を切る人、経木をつくる人、さんぴらを編む人、経木帽子をつくる人などの作業過程を実際に見学したり、直接話を聞いたりして、伝統工業を支える人々の様々な努力と、その産業が直面する課題を明らかにしています。

さらに、その課題をどのように解決するのかを考え、今後の研究課題を見いだしています。

このような点から、本作品は完成度の高い作品であると、評価を受けました。

授賞式にて

子どもの文化・教育研究所　理事長賞

「牛乳大戦争!!」

東京都・目黒星美学園小学校五年　加藤明子

雪印の食中毒事件が世間を騒がせていた時期に、タイミングを逃すことなく二度にわたって雪印本社に突撃取材を行うなど、勇気と行動力にあふれる作品です。

食中毒事件の原因を追究するのではなく、この会社が今後どうしていくことが大切なのかをテーマにした、いわゆる参加型、提言型の作品となっています。「牛乳調べ・さすらいの旅」と題された取材では、牛乳の仕入れ状況や雪印の食中毒事件に対する思いなどを、十か所の店の店員に熱く語ってもらっています。その様子も、単純に質問と回答を羅列するのではなく、店員の様子を、「どうしてこんな子どもの相手をしなければならないんだという思いがにじみ出ていました」「口は悪かったけど、いい店長さんだった」などと、表現しているため、とてもユニークな作品に仕上がっています。

また、見出しも「雪印！突撃取材」「二度目の出陣！雪印本社へGO！」といったインパクトの強いものが大半を占めるため、見る人の心を最初から最後まで引きつけるすばらしい作品です。今後、明子さんが何に興味を抱いて研究をするのか、とても楽しみです。

読んでみたいと思わせてくれる、すてきな表紙です

総評

今年社会科部門には、約八百点の作品が寄せられました。全体的に女子の作品が多く、優秀作品もほぼ女子で占められているので、今後は男子の積極的な参加が望まれます。また、学年でみると、小学校三年生の作品は、着想力が鋭く、目的を持って取り組んでいるものが数多く目立ちました。さらに、今年の大きな特徴は、中学生の作品の中から文部大臣奨励賞が選ばれた点です。地元の伝統工業を取り上げた、郷土学習のすばらしい実践例です。特に、研究を通して、今後の研究課題を導き出している点に、高い評価が集まりました。

社会科部門の研究は、単なる「事実」や「結果」に終始するものではありません。人と人とのつながりを大切にした体験的なものや、「これからどうするのか」という、今後の課題を明確にしたものです。

「二十一世紀を支えるのは自分たちだ！」という強い意志を持って、研究に取り組んでください。

中央出版株式会社　社長賞

「古代の文明におこったやき物」

アメリカ・ローレンス小学校三年　太田英伶奈

小学校三年生の入選作が多かった中で、特に光った作品です。幼稚園のときから興味のあった焼き物について取り上げ、焼き物の歴史にとどまらず、ろくろを使用しているかどうかや、絵・もようについても着目しています。

半年以上ボストン美術館に通いつづけ、また夏休みにイギリスの大英博物館などにも行って、日本・ギリシャ・中国・エジプトの古代の焼き物について多くの資料を集めました。とちゅう、それまでの情報を書きとめていたノートをなくしてしまうというハプニングに見まわれながらも根気よく調査をやり直し、難しいテーマを年表や写真を使って体系的にまとめています。また、アメリカ人の焼き物に対する意識調査のため、アンケートも積極的に行いました。

研究のきっかけからまとめまで、構成もしっかりしています。最も古い時代から焼き物を作っていた日本に誇りを持っている、英伶奈さんの気持ちが伝わってくる作品です。

焼き物を一点ずつ丁寧に解説してあります。別に、一枚の紙にまとめた一覧表もありました

優秀賞

「てんじ」
京都府・京都市立陵ヶ岡小学校3年
小澤　藍

「わたしの町の道ろひょうしき」
岐阜県・美濃加茂市立古井小学校3年
土谷　清香

「調べてみよう！ 作ってみよう！ 大むかし」
岐阜県・瑞浪市立釜戸小学校3年
有我　知夏

「時代をこえて…21世紀への手紙」
東京都・東京学芸大学教育学部附属小金井小学校6年
小野沢　悠

「新聞を調べよう！」
東京都・千代田区立お茶の水小学校3年
青木　玲音

日本社会科教育学会　会長賞

「私がみつけた水そして人」

千葉県・流山市立流山小学校六年　鈴木蛍

毎年、「私がみつけた」シリーズとして人と環境との関係からさまざまなテーマを見つけて研究してきた蛍さんは、小学校六年間の総まとめとして、水と人との関係に注目しました。

身のまわりのさまざまな液体の性質を調べるために、ムラサキキャベツを使ってリトマス紙を作ったり、市販の水の売れ方や殺菌・保存方法を調べるために十社以上の会社に手紙を出したりして、手間をおしまずにコツコツと、水と生活とのつながりを調べています。また、ダムや森など、水のふるさとをたずねたり、新聞記事を集めたりして、水と環境とのつながりについても、身近な問題から世界的な問題まで考察しました。

研究したことを自分の中でしっかり消化して順序よくまとめ、最後に反省と問題点もきちっと述べています。身近なものに着目し、広い範囲にまで発展させたこの作品は、内容の濃い模範的な作品です。

ドキュメンタリーのように、蛍さんの行動や考えを読む人が追っていける作品です

自由研究のワンポイントアドバイス

●テーマ選び

教科書的な内容にとどまらず、自分の身のまわりのできごとで「おもしろいな」と思ったことから調べてみましょう。調べるうちに、新しいテーマも見つかります。

●研究方法

調べものをするときは、図書館、博物館、美術館などや、新聞・インターネットなども積極的に利用しましょう。時間のかかる研究は、計画をきちんと立ててから始めましょう。調査や体験などを通した具体的な事実には説得力があります。

●まとめ方

動機（きっかけ）→研究→まとめ、という流れを考えて作りましょう。また、写真、イラスト、図などを使って、作品として見やすく表現しましょう。ビデオなどを使用してもいいかもしれません。

そして大事なのは、研究の結果から何を考え、何を得たかです。自分にとって価値のある作品を目指しましょう。

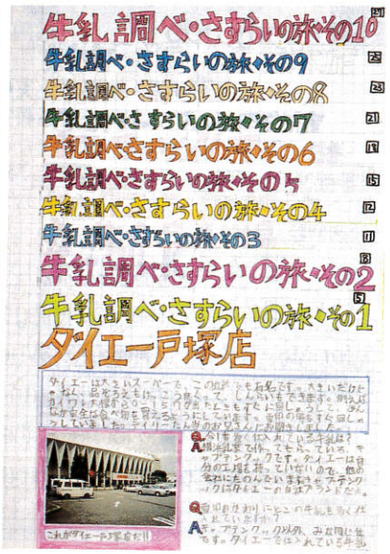
中日新聞社賞

「ぼくの見つけたこんな物」

岐阜県・美濃加茂市立古井小学校六年　服部雄太

小学校五年生の夏休みに、家の近くで土器のようなものを見つけました。役所の文化課の人に見てもらうと、それが縄文土器であること、自分の家のあたりが川合東遺跡という遺跡であることがわかりました。ここから、雄太さんの一年にわたる調査が始まりました。

作業が驚くほど丁寧な作品です。発掘した約一五〇点の土器の一つ一つの時代、種類、使い方を調べ、方眼紙にメジャーを置いた横に土器の破片を並べて写真をとり、使い方をイラストで説明しています。

ほかの遺跡の発掘現場に行ったときの報告や、見つけた土器の時代を歴史年表と合わせて説明したまとめなどもわかりやすい作品です。興味を持ったことを深く追求し、読む人にも昔の人の器用さが伝わってくる、土器の研究書に仕上がりました。

イラストも、動きがあってとてもリアルです